

巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散し全世界を混乱に陥れ、長野県透析研究会の学術活動にも大きな影響を与えました。

2020年11月に開催するはずであった第68回長野県透析研究会学術集会は、医療現場を含め日本全体が厳戒態勢で感染症対策を行っていたこと、第2波・第3波の感染拡大が危惧されたこと、県内透析従事者が感染した場合に透析患者のクラスター化を起こしてしまう可能性があったこと、などから史上初の長野県透析研究会誌上での論文発表という形式での開催とさせていただきました。

その後もCOVID-19は完全収束することなく感染拡大を繰り返し、social distanceが必要な世界が3年以上も続くことになりました。しかし、人類もウイルスに屈服することなく様々な対応策を模索し、感染伝播の特徴の解明やそれに基づく感染予防対策の徹底、そしてRNAワクチンやCOVID-19治療薬の開発と臨床応用がなされました。それらの対策の結果、COVID-19による重症化率を著明に低下させることに成功し、2023年5月にCOVID-19は5類感染症に引き下げとなり、2024年4月からCOVID-19に対する特例措置は終了し、一般感染症として扱うことになりました。

この間、第69回、第70回、第71回の長野県透析研究会学術集会はweb配信を利用したハイブリッド集会として開催させていただきましたが、2024年9月に開催予定の第72回長野県透析研究会学術集会は、5年ぶりに完全対面開催で行われる予定です。

今回の長野県透析研究会誌は、COVID-19の影響を受けつつも徐々に日常が取り戻されつつある第71回学術集会での発表内容を中心に構成されています。多くの苦勞をかけて作成された論文ばかりですので、より多くの方々にこれらの論文を自由に読んで頂きたいと思えます。今後の透析医療の参考にして頂くために、2022年から長野県透析研究会誌はオープンアクセスの電子ジャーナルになりました。オープンアクセス化により、長野県から発信した研究内容が日本中で利用されることが期待されます。論文のオープンアクセス化に向けては、個人情報保護や倫理的問題や論文内容の問題がないかの査読によるチェックが必須となります。今回も、多くの査読者の皆様のご協力を得、web公開前に論文チェックを行うことができました。査読者の皆様には、多くの時間を割いて頂いたかと思えます。この場を借りて査読者の皆様に感謝申し上げます。

査読をしっかりと行った場合には、その後に執筆者の皆様には修正作業をして頂くことが必要となります。執筆者の皆様におかれましては、長野県透析研究会誌への論文投稿にあたって事前に長野県透析研究会誌の投稿規定を熟読していただき、投稿規定に沿った論文作成をして頂くことを是非ともお願い致します。

2024年現在、透析医療における大きなトピックとしては、日本透析医学会で長年継続的に行っている透析患者の統計調査において、2022年末の透析患者総数が初めて前年を下回った、ということが示されました。新規透析導入患者数の減少と、透析患者の死亡数の増加による総数の減少になります。新規透析導入患者が減少したことは、慢性腎臓病・糖尿病性腎臓病の重症化予防対策や新規薬剤開発による好ましい成果と思われ喜ばしいことではありますが、透析患者さんの死亡の増加というのは看過できない事態でもあります。我々、透析従事者は、可能な限り、透析患者さんの生命維持、社会復帰、QOLの向上が図れるように日々努力する必要があります。現在、透析患者さんを取り巻く多くの問題や課題があります。透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い、保存的腎臓療法や腎臓リハビリといった新たな話題、共同意思決（SDM）に基づく腎代替療法選択など、様々なトピックがあります。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌は、これらのトピックに対して様々な観点から議論をし、得られた知見を世界に発信できる存在になることを目標にしたいと思います。長野県透析研究会の皆様におかれましては、目標に向かい心を一つにしてともに歩んで頂くことをお願いしたいと思います。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。